

支部における社会貢献活動

公益社団法人 全国上下水道コンサルタント協会 / 調査課長 幡豆英哉

公益社団法人全国上下水道コンサルタント協会（水コン協）の各支部では、それぞれの地域で開催される水環境や上下水道にかかわる各種イベントや、社会に貢献できる活動に積極的に参加しています。

平成30年、各支部が参加した社会貢献活動を以下にご報告致します。

(1) 「水循環パネルの貸し出し事業」 北海道支部

北海道支部では支部で作製した水循環パネルを、毎年様々な会場へ貸し出しを行っています。平成30年度は、7月24日から8月6日にかけて「新ひだか町」にパネルをお貸しし、新ひだか図書館博物館及び総合町民センターなどで展示して頂き、訪れた多くの方々に水循環への理解を深めて頂きました。また、「上下水道パネル展」に來場された方々から表-1に示すとおり感想を頂きました。

表-1 アンケート意見集約（感想のあったもののみ抜粋）

住所	性別	年齢	上下水道パネル展の感想など
町内	男	12歳	⑥で海の水がじょうはつして雲になるなど初めてしれることがあっておもしろかった。
町内	女	57歳	大変良いパネルでした。
町内	女	42歳	子供でもわかりやすいパネルで、普段の生活に必要な「水」について知ることができて良いと思う
町内	女	47歳	ふだん何も気にせず使ってる水のことがよくわかりました。
町内	男	66歳	我が国では水の安全に重点が置かれている事が良くわかりました。貴重な水を大切にしたいと思います。
町内	女	63歳	見やすく、わかりやすいです。
町内	女	34歳	北海道では全国に比べ3倍以上の水資源があることをはじめて知った。
町内	女	41歳	パネル展を子供と一緒に見ました。世界には不衛生な水などを原因とした病気で命を落としている子供がいることにおどろいていました。当たり前前に蛇口から水が出てくることに、改めて感謝とともに大切にしなければならぬと強く思いました。災害時の備えを考えるきっかけとなりました。
町内	女	8歳	パネルはわかりやすいせつめいでした。だから自由研究にしたいと思いました。
町外	男	10歳	学校で習ったことのまとめが出来ておもしろかった。
町内	女	40歳	大きい字で見やすかったです。
町内	男	43歳	とても勉強になりました。一般公開にも行ってみたいになりました。
町内	男	7歳	水をたいせつにしようとおもった
町内	男	29歳	ていねいな展示で見やすかったです。カラーのマンホールがよかったです。
町内	女	15歳	とてもくわしく書かれていて分かりやすかったです。
町内	男	39歳	水の大切さがよくわかった！



写真-1 新ひだか町での水循環パネル展示状況

(2) 「広瀬川1万人プロジェクト～第26回 広瀬川流域一斉清掃～」 東北支部

開催日時：2018年9月29日(土) 10:00～12:00

広瀬川1万人プロジェクトは、杜の都・仙台のシンボルである広瀬川の自然環境を守り、多くの市民が親しめる広瀬川とするため、100万都市仙台の1%・1万人をキーワードとして、市民・企業・行政などで実行委員会をつくり活動を展開しています。主な活動は、春と秋に実施している流域一斉清掃です。

今回の参加者数は全14会場で2,065名（昨年1,952名）、集めたゴミは339袋になり、昨年より100袋ほど減少したようです。

水コン協東北支部は、今回で11回目の参加となります



写真-2 広瀬川で清掃作業をする東北支部の皆様及び集合写真

が、当日の天気は、雨の心配がありました。清掃作業には良いコンディションでゴミ拾いや散策することが出来ました。会員14社（昨年11社）から総勢71名（同62名）が参加し大橋左岸会場にて清掃作業を行い、大勢の方にご参加いただいたおかげで定刻より早めに作業を終了することができました。これからも多くの市民が楽しめるよう、自然環境を守る活動を継続していきたいと思えます。

(3) 「仙台市下水道フェア」 東北支部

仙台市下水道フェアは、11月3日（土）文化の日「青葉区民まつり」に併設するかたちで開催されました。例年この時期は凍えるような寒さの中での開催となりますが、当日は天候にも恵まれイベント日和となりました。

東北支部としては5回目のブース出展となりますが、恒例となっている出展内容は「下水道のがっこう」と称する「下水道のクイズ」と、例年埼玉県下水道公社様よりお借りした装置を参考に東北支部独自で製作した「つまらん管」を用いた実験を行い、さらに参加して頂いた方を対象にくじ引きにより景品を提供しました。毎年、出展内容を改善しており、「下水道のクイズ」では手持パネルを導入しより近い距離で接客を行うなど、今回もリピーターがいるほど好評を頂きました。

今回の出展により、下水道について興味を持って頂き、協会として啓蒙活動に役立てたと思います。



写真-3 「下水道のクイズ」での接客状況



写真-4 「つまらん管」の実験を見学するため集まってきた子供たち



写真-5 仙台市下水道フェア東北支部実行委員の皆様（撮影者を含めて13名参加）

(4) 「身近な水環境の全国一斉調査」 関東支部

「身近な水環境の全国一斉調査」は、市民グループと河川管理者が連携して実施する「全国水環境実行委員会」が主催して行う水環境の調査活動で、平成29年度までに全国で延べ約9万9千人が参加しています。第15回目となる「身近な水環境の全国一斉調査」は、平成30年6月3日（日）に実施され、関東支部からは会員会社12社及び本部事務局の社員とその家族の合計85名（大人72名、子供13名）が水質調査に参加しました。



写真-6 身近な水環境の全国一斉調査採水状況（株東洋設計事務所・石井様御家族）



写真-7 身近な水環境の全国一斉調査水質測定状況その1（株東洋設計事務所・石井様御家族）



写真一八 身近な水環境の全国一斉調査水質測定状況その2
(株東洋設計事務所・石井様御家族)

調査地点は、参加者が生活されている地域の身近な河川・湖沼等の55地点で、COD測定と水辺の環境や動植物についての観察を致しました。毎年、参加された方あてに、この調査活動についてのアンケートをお願いしていますが、はじめて参加された方からは「このような取り組みは、水質保全の意識高揚のためにも非常に有意義だと思います。」。さらに、7回目の参加となった方からは「毎年、定期的に川の様子や変化を感じることができて、よい機会になっています。」など、嬉しい感想が記されていました。

(5) 出前授業の実施 中部支部

中部支部の「出前授業」は、平成30年度で5回目を迎えました。上下水道の仕組みについて学ぶ小学4年生を対象に、「下水道の仕組み」について説明しました。

授業の内容は、以下のふたつです。

- ①下水道協会のHP スイスイ君を用いた「下水道の仕組み」の説明。
- ②「なぜティッシュを流していけないの?」と題した、トイレットペーパーとティッシュの簡易な溶解実験。(妖怪?実験室…と命名!)

授業は、子供たちが目を輝かせ積極的に質問する事態となり、水コン協中部支部の説明員もタジタジとなる状況でした。さらに、既に子供たちは名古屋市浄水場施設などを見学しており驚くほど正確な知識を持っていました。

今年度も和やかな雰囲気の中で授業が進められ無事終了しました。今後は「別の学校での出前授業実施」など、展開が課題となっています。

(6) 「愛知県下水道科学館夏祭り」への参加 中部支部

中部支部では毎年、支部内の「下水道フェア」に協賛参加しています。過去には愛知県の各流域下水道フェアに参加し、十数年継続実施してきました。また、ここ数年は、富山県の下水道フェスタや、愛知県下水道科学館



写真一九 出前授業の様子(子供たちに興味を持って貰う様、変装しての授業です!)



写真一〇 妖怪実験室(簡易溶解実験)の様子
(別々のペットボトルに、ティッシュと色付きトイレットペーパーを水と一緒に入れ、シェイク! その溶解状況を観察します。)

夏祭りに交互に参加している状況です。毎年年度初めに、各自治体から参加要望が舞い込む状況になっています。今年度は愛知県の番でした。具体的な活動内容・目標は以下のとおりです。

- ①「簡単なゲーム(ボウガンダーツ)」の賞品として、冷たく冷やした「中部各地の美味しい水」を配布し、我々が活動している中部地区の「水」が如何に美味しいか・素晴らしいかを体験して頂く。
- ②水の循環を知って頂くとともに、水や上下水道システムのありがたさを再確認して頂く。
- ③水コン協の活動を知って頂く。

賞品の「水」は中部地区内の自治体等が販売されている「水道水主体のペットボトル水」です。いくつかの自治体からは無償で提供頂いています。近頃は活動の趣旨を御理解頂き、「無償提供」の自治体が増えてきました。

子供・大人を問わず大変好評な企画で、用意した賞品の「水」約700本は「あっという間」に無くなってしまいました。また、中部支部マスコット「エアリス」の物語と団扇も、水コン協の宣伝に一役かってくれました。



写真-11 中部支部マスコット「エアリス」
 (エアリスは、中部支部の運営委員・各委員の名刺にも印刷し、結構人気があります！)



写真-12～14 愛知県下水道科学館夏祭りの模様

(7) 水源涵養事業

中部支部

中部支部では東海地区の水源地域のひとつである長野県木曾町にて「水源涵養」事業に、10数年継続して参加しています。水源涵養林の「枝打ち」等の作業を労働奉仕すると共に、作業を通じて水源の重要性や水のありがたみを身をもって体験することができます。

本事業は、平成30年度大きな転換期を迎えました。従来、中部支部は別途NPO法人が実施する「水源保全事業」に協賛・参加してきましたが、同法人が撤退したため、本年度より、直接木曾町様と水コン協中部支部が水源保全事業の「覚書」を取り交わし、水コン協中部支部が主催者として実施することになりました。覚書調印式には新聞記者も取材に訪れ、遠く離れた愛知県版でもこの取り組みを報道して頂きました。今後は水源保全活動のみならず、水源地域が持つ多くの課題解決に微力ながら協力していくことになります。

さて、今年度の水源保全事業は、秋深まる10月27日(土)に開催致しました。参加者は、早朝名古屋駅をバスで出発する者、前日から現場付近で宿泊する者、直接自家用車で来る者など木曾町の山麓で合流し、木曾町農林



写真-15 「覚書調印式」の様子
 原久仁男木曾町長(右)と上田直和中部支部長(左)



写真-16 参加者全員集合写真



写真一七 作業の様子



写真一九 「ラブアース・クリーンアップ2018 inふくつ」九州支部参加者の清掃作業風景



写真一八 昼食のひと時



写真二〇 「ラブアース・クリーンアップ2018 inふくつ」九州支部参加者

振興課のご説明や現地森林組合役員から技術指導を受け、作業服とヘルメットのいでたちでノコギリを腰に差し現地に向かいました。作業班は指導員の目が届く10人未満の編成で、総勢約50名余が「枝打ち」を行いました。私たちが手に余る木々は指導員がチェーンソーで切り倒すなど、迫力ある作業をまじかで見ることができました。また、今回は女性参加者も多く、華やかな雰囲気につつまれました。作業終了後は木曾の温泉で汗を流し、充実した社会貢献活動の一日となりました。

(8) 「ラブアース・クリーンアップ2018 inふくつ」

九州支部

ラブアース・クリーンアップ福岡地区実行委員会が主催する「ラブアース・クリーンアップ2018 inふくつ」は、平成30年6月10日（日）に開催されました。

会場は福岡・津屋崎海岸一帯で、海岸に散乱しているゴミの清掃作業を通じて環境保全の重要性についての意識の向上を図るものです。参加者の総数は980名で九州支部からは125名が参加致しました。ごみ収集は、可燃物、不燃物、ポリ容器等合計3,543kg収集され、環境保全の重要性を大いに認識しました。

(9) 「北九州～中津ウォーキング大会2018」九州支部

北九州市の水源が立地する中津市から北九州市まで水を送る「耶馬溪導水」の長い距離を体感し、水の大切さを考える目的で開催されている「北九州～中津ウォーキング大会2018」は、中津市と北九州市が主催し平成30年10月20日（土）開催されました。北九州市をスタートして中津市までを①50km②20km③10kmの3コースに別れて、日頃から鍛えた健脚で老若男女が爽やかな汗を掻きウォーキングを楽しみました。水コン協九州支部は、協賛団体の一つとして豊前市内に設置された給水ポイン





写真-21～24 北九州～中津ウォーキング大会2018 給水所の様子

トにて、4名で給水活動と参加者へのエールを行いました。

(10) 第21回「耶馬の森林」植樹の集い 九州支部

「耶馬の森林」育成協議会が主催する第21回「耶馬の森林植樹の集い」が、平成30年11月4日（日）大分県耶馬溪ダム湖畔で開催されました。

本事業は、耶馬溪導水事業の完成により、流域の中津市から北九州市まで約127万人が、毎日『水』の恩恵を

受けて暮らしていますが、過疎化・少子高齢化の進展により豊かな水を育む森林の維持・管理が危惧される状況にあることから、水源涵養のための植樹を行うことを通じて、水源保全に貢献し、併せてその重要性を認識するものです。

九州支部からは会員とその家族合わせて26名が参加致しました。植樹の作業をとおして水源保全の重要性を大いに再確認致しました。



写真-25～26 「耶馬の森林」植樹 九州支部参加者の作業風景



写真-27 「耶馬の森林」植樹 九州支部参加者集合写真